

第35回中国ミニバスケットボール交歓会出場報告書

久保ミニバスケットボールスポーツ少年団

監督 堀江 隆史
コーチ 村川 武司
" 中嶋 恵介
" 富永 愛

開催日：平成27年12月26日（土）～28日（月）

場 所：カミアリーナ（島根県出雲市 浜山公園体育館）

結 果：予選リーグ（12月26日）

1試合目 ○久保34（前半13-19、後半21-10）29羽合（鳥取）●

2試合目 ●久保37（前半13-19、後半24-22）41川津（島根）○

交流戦（12月27日）

○久保37（前半14-17、後半23-17）34法吉（島根）●

久保ミニバスは平成8年に地元下松市久保地区（久保小・東陽小）子供達の健やかな成長に資することを目的に結成し、今年度で活動20年目を迎えました。節目であるこの年に、初めての1部、そして全国大会を目指してのチャレンジとなりましたが、子供達・保護者・指導者が一丸となり、栄えある山口代表として中国大会に初出場することができました。

11月末の県決勝大会では準決勝で惜敗し、チーム全体が落ち込んでいた中、3位決定戦では子供達が気持ちを切り替え、練習してきたことの全てを出し切り、中国大会出場権を勝ち取りました。「最後まであきらめない気持ち」を保護者・指導者が子供達から逆に教えられた感じです。また、県決勝大会から1ヶ月間という短い調整期間ではありましたが、子供達の前向きな練習、保護者の皆さんの熱いサポートにより、中国大会の開会式に立つことができたと思います。

結果は残念ながら、力及ばず予選リーグ1勝1敗となり、決勝トーナメント進出は叶いませんでした。しかしながら、交流戦も含めていずれも接戦であり、久保ミニバスの目指す「粘り強いデフェンスから流れを作るバスケット」をすることができたこと、そして、選手・保護者・指導者が一つになって戦えたことでチームとしても大きく成長できた大会となりました。また、3年生も含めてスタートメンバー10名を揃えるのがやっとのチーム状況の中で、上級生は下級生をカバーし、下級生は頑張って上級生についていく、そんなプレイを随所で見ることができ、ミニバスならではの楽しさ、素晴らしさを感じる大会にもなりました。

秋季交歓会～県決勝大会～中国大会出場を通じて、子供達は良い経験と思い出を作ることができ、バスケットだけに限らず、これからの社会生活においても大きな財産となりました。また、チームにとりましても中国ブロックを代表する強豪チームとの対戦で成果と課題も見つかりました。今後の指導に活かし、バスケットを通じて地元の子供達の健やかな成長をサポートして参りたいと思います。

最後になりましたが、中国大会出場にあたり、小林会長をはじめとする山口県ミニバス連盟役員・関係者の皆様、帯同いただいた審判団・コミッショナーの皆様には大変お世話になりました。また、下松市内外のチームの皆様、卒団生及び保護者の皆様、地元の皆様等多くの方々に心強い応援・ご支援を賜りましたことに対し、この場をお借りし御礼申し上げます。ありがとうございました。



第35回中国ミニバスケットボール交歓会に出場して

久保ミニバスケットボールスポーツ少年団

主将 藤井 心咲

新チームスタートの時、久保ミニバスは6年生5人、5年生2人、4年生1人、3年生3人。全員で11人ギリギリのチームでした。どの試合もまずは体調管理が大切で、一人欠けても心細くなるようなチーム体制でした。1試合1試合、全員が協力し、声をかけ合い、6年生は「卒団するまでに1度は優勝したい！」というのが目標でした。

そんな私達が、夏までは2部で「春期交歓会中部地区大会」優勝、「夏季交歓会山口大会」優勝を経て、秋からは1部で挑戦すると決めました。不安も大きかったですが、指導者・保護者の方々の応援と協力を支えに、チーム一丸となって頑張ってきました。

久保ミニバス20年目の年に初めて1部に上がり、初めて県決勝大会に出場することができました。県決勝の準決勝で負け、一度はあきらめかけましたが、1時間後に迫る3位決定戦に気持ちを切りかえて全力を出しきり、中国大会出場を勝ち取ることができてとても嬉しかったです。

中国大会のような大きい大会に出場するのは初めてなので、会場の雰囲気にも圧倒され、開会式や交流会も夢のように感じました。





初戦は鳥取県の「羽合」でした。背の高いチームでしたが、前半粘り、後半巻き返す久保ミニバスのプレイスタイルで勝利。2戦目は島根県第1代表の「川津」でした。前半リードされ、後半の立ち上がりで12点まで差を広げられました。粘り強いディフェンスから4点差まで追いましたが、力及ばず負けてしまいました。接戦を勝ちきれずとても悔しかったです。

決勝リーグに進めず、反省する点や残念な思いもありますが、今できる久保ミニバスの「全員バスケ」で戦い、チームカラーやプレイスタイルも出し切って戦ったことを誇りに思います。この経験を今後のプレイに活かしていきます。

最後に、夏の暑い中、小さい体を汗だくにして練習についてくれた下級生、休日も練習についやして下さった指導者の方々、一番近くで支え一緒に泣いたり笑ったりして下さった保護者のみなさんに感謝の気持ちを伝えます。



『ありがとうございました！』

